

大阪府の中学校における準硬式野球の誕生と展開

山田 奨太

キーワード：大阪府、中学校、準硬式野球

1. 研究の動機

私が中学校で軟式野球部に所属していた時に、道具を管理する倉庫に準硬式球が入っていた。聞くとところによると、何年か前まで私の中学校でも準硬式野球が行われていたが、廃止となり、準硬式野球部の代わりに軟式野球部ができたそう。調べてみると大阪府の一部の地域でのみ中学校の部活動として行われており、大阪府でのみ行われているようだ。そこで私はなぜ大阪府の一部地域でのみ中学校の部活動として行われているのかについて興味をもち、調べてみたと思ったことが本研究の動機である。

2. 研究の目的と意義

本研究の目的は大阪府の中学校で行われてきた準硬式野球の誕生の経緯と盛衰を解明することである。大阪府の中学校における準硬式野球のこれまでのあり方についての理解を深めること、一部の地域に新しいスポーツがどのように誕生し、その後展開したのかということをお大阪府の中学校の準硬式野球にみる新しい知見をスポーツ史研究に追加できることが意義である。

3. 先行研究の検討

高校野球やプロ野球等、野球の中でも人気のある分野においては明らかにされているものの、中学野球や少年野球等、人気あまりない分野においては明らかにされておらず、特に準硬式野球に関しては不明なところが多く、準硬式野球の誕生と展開をお大阪府の中学校という観点から明らかにすることは有意義である。

4. 研究の方法

本研究では以下の3つの時期に区分して大阪府の中学校の準硬式野球の誕生と展開を明らかにしていく。準硬式野球が開発された1949年を研究の対象期間の始まりとし、大阪府の中学

校で準硬式野球の大会が開催される1950年までを誕生期として第1章とする。さらに、1961年から大阪府の中学校では軟式野球の大会が開始され、大阪中学校優勝野球大会の参加校は激減するため、大変大きな出来事として捉え、その後、2017年までを広く捉えて第3章とする。その間の1951～1960年までを普及期と捉え、第2章とする。

1) 準硬式野球の誕生と第1回大阪中学校優勝野球大会が開催される誕生期(1949～1950年)(第1章)

2) 大阪府の中学校における準硬式野球の普及期(1951～1960年)(第2章)

3) 大阪府の中学校における準硬式野球の減退期(1961～2017年)(第3章)

扱う史料は第1回大阪中学校優勝野球大会から継続して本大会について取り上げて報道している新聞である『夕刊新大阪』『新大阪』『大阪日日新聞』などの一次史料、大阪中学校体育連盟、大阪中学校体育連盟準硬式野球部、近畿中学校体育連盟の連盟記念誌、関係者からのインタビュー、市議会や町議会の議事録、中学の硬式野球のクラブチームの協会、連盟のHPなどである。

5. 本論

5.1. 準硬式野球の誕生と第1回大阪中学校優勝野球大会が開催される誕生期(1949～1950年)

戦後、日本では復興がままならず、教育も行き届いていないような状態ではあったが、野球というスポーツは非常に人気を博し、各地で盛んにおこなわれていた。そんな時、軟式野球と硬式野球の過渡的な役割として、中学校のボールを統一する役割として準硬球、つまりトップボールは誕生した。その翌年には準硬球を使用

する大阪中学校優勝野球大会が始まる。大阪府下 209 校、3000 もの中学生が集まり、盛大に開会式が開かれる。中央大会の開会式には高松宮殿下が訪れ、注目を集める大会となった。

5.2. 大阪府の中学校における準硬式野球の普及期 (1951～1960 年)

大阪各地から中学校が大阪中学校優勝野球大会に参加したり、中央大会の出場校数が増えたり、中学野球初のナイター試合が行われたり、大阪府下での準硬式野球の広がりを見せる。さらに、近畿各府県の大会を勝ち進んだ中学校を集め近畿大会が開催されたが、そこでは準硬式球、軟式球の 2 種類のボールが試合ごとに選択される方式がもちいられていたため、軟式野球を使用する場合があるこの大会を準硬式野球をしている中学生はあまり良い印象を持っていなかった。

5.3. 大阪府の中学校における準硬式野球の減退期 (1961～2017 年)

基本的には、年を重ねるごとに参加校数は減少傾向を続けるが、大きな要因の 1 つとして軟式野球への移行が挙げられる。さらに、1970 年代頃から、中学校の外部で行う硬式野球が盛んになり、軟式、準硬式、硬式と野球人口を分け合うことになる。硬式野球チームの発展、軟式野球への移行から準硬式野球は減退する。軟式野球への移行の理由として、広いグラウンドの確保が困難、ボールがネットを越して起こる近隣住民の所有物の破壊、同じグラウンド内の他部活の生徒の事故などがあった。それを防ぐために、先生の指導が必要なのだが、その先生自体も不足していた。

2017 年 12 月現在も大阪中学校体育連盟準硬式野球部は存在し、平成 29 年度の加盟校は 69 校、選手数は約 1800 人である。69 校の内の 7 校は平成 30 年に軟式に移行することが決定している。また、年に春の大阪中学校春季選抜野球大会、夏の大阪中学校優勝野球大会、秋の大阪中学校秋季総合体育大会の 3 つの大会が開催されている。

6. 結論

準硬式球という新しいボールが誕生して、その球を使用した大会が盛大に開催され、大阪の中学野球における基盤を築くも、約 10 年後には下降の一途を辿るようになる。中学校のグラウンドは他部活との共同使用がほとんどであるため、他部活の生徒に当たる危険が伴う。また、中学校のネットを越す事故も発生していることから近隣住民や、その所有物に当たる可能性があり、様々な“危険”が伴うというのが大きな理由の一つである。学校という組織の限界から策を講じられず、実際に事故が起きているため、公の立場からより安全な方へと移行せざるを得ない。そのような背景から減少傾向になっていると考えられる。

大阪府の中学校における準硬式野球は衰退する傾向ではあるものの、竹内、藤田の 2 名のインタビューを通して、準硬式野球が現存する理由が見えてきた。大阪府の中学野球で最も古くから続く準硬式野球の歴史や伝統を途絶えさせるわけにはいかないという思いや、やはり準硬式野球が好きだ、他には代えられないという思い、熱意が感じられ、準硬式野球に関わる熱意を持った先生方の働きによって残っているのだと考える。

戦後の日本において大阪府という一部地域で始まった準硬式野球というスポーツはそのスポーツを必要とする人と、そのスポーツが担う役割が存在したということが、大阪府という地で、偶然重なり合い誕生したと考える。しかし、全国的な広がりを見せることなく、衰退していつてしまった。要因としてはそのスポーツに関わる人に向く危険性ではなく、関係のない他人や外の環境に向けられた危険性を克服することができなかったことだと今回の研究から考察できる。スポーツは人類においてなくてはならないものではあるが、スポーツをする人ではなく、その周りの人や環境に危険を及ぼす、あるいは被害を与えるものであってはならない。

(指導教員 秋元忍准教授)